

明示的な **Jacquet-Zagier** 型跡公式について  
 On explicit **Jacquet-Zagier** type trace formulas

○杉山 真吾<sup>1</sup>  
 \*Shingo Sugiyama<sup>1</sup>

Abstract: Let  $F$  be a finite totally real number field and  $\mathbb{A}_F$  the ring of adèles of  $F$ . In this talk, we give generalized trace formulas with complex parameter  $z$  for  $GL_2(\mathbb{A}_F)$ . This is a joint work with Masao Tsuzuki (Sophia University).

1. はじめに

モジュラー形式の空間上の Hecke 作用素の固有値は、複素関数論に現れる整数論的な量である。この Hecke 作用素の跡公式 (Eichler-Selberg 跡公式) の変数付き一般化を紹介し、モジュラー形式の Fourier 係数の分布や対称 2 次  $L$  関数の特殊値の非ゼロ性への応用を紹介する (上智大学の都築正男氏との共同研究)。

重さ  $k$ , レベル  $\Gamma_0(N)$  の楕円カスプ形式全体のなす  $\mathbb{C}$  ベクトル空間を  $S_k(N)$  とすると、 $N$  と互いに素な  $n \in \mathbb{N}$  に対して、Hecke 作用素  $T_n \in \text{End}(S_k(N))$  を

$$(T_n f)(z) = n^{k-1} \sum_{\substack{a,d \in \mathbb{N} \\ ad=n}} \frac{1}{d^k} \sum_{b=0}^{d-1} f\left(\frac{az+b}{d}\right)$$

で定めることができる。Eichler-Selberg 跡公式とは、 $T_n$  のトレースの 2 通りの表示によって得られる等式である。

定理 1 簡単のため  $N = 1$  とし、 $k$  を 4 以上の偶数とする。

$$\sum_{f \in B_k(1)} a_f(n) = \text{tr}(T_n) = J_i + J_u + J_h + J_e.$$

ここで  $B_k(1)$  は  $\{T_n\}_n$  の同時固有関数からなる  $S_k(1)$  の Petersson 内積に関する直交基底である。また、

$$J_i = \delta(\sqrt{n} \in \mathbb{N}) \frac{k-1}{12} n^{\frac{k-1}{2}}, \quad J_u = \delta(\sqrt{n} \in \mathbb{N}) \frac{-n^{\frac{k-1}{2}}}{2},$$

$$J_h = -\frac{1}{2} \sum_{d,d' > 0, n=dd', d \neq d'} \min(d, d')^{k-1},$$

$$J_e = \sum_{\substack{t \in \mathbb{Z} \\ t^2 - 4n = f^2 D < 0}} \frac{-h(E)}{\#\mathfrak{o}_E^\times} \sum_{0 < d|f} d \\ \times \prod_{p|d} (1 - p^{-1} \chi_D(p)) n^{\frac{k-2}{2}} U_{k-2}\left(\frac{t}{\sqrt{n}}\right).$$

ここで条件  $P$  に対して  $\delta(P)$  は  $P$  が成立する時に 1, 成立しない時に 0 とする。  $t^2 - 4n < 0$  となる整数  $t$  に対して  $E = \mathbb{Q}(\sqrt{t^2 - 4n})$  とおいた。  $h(E)$  は  $E$  の類数、  $\mathfrak{o}_E$  は  $E$  の整数環である。また、  $D < 0$  は  $E$  の判別式である。  $\chi_D$  は大域類体論により  $E$  に対応する 2 次 Dirichlet 指標である。  $U_{k-2}$  は  $k-2$  番目の第 2 種 Chebyshev 多項式である。

2. 跡公式の一般化

Zagier [5] はレベルが  $N = 1$  の場合に、  $T_n \in \text{End}(S_k(1))$  の跡公式の一般化として、完備化された対称 2 次  $L$  関数の重み付きトレースの公式

$$\sum_{f \in B_k(1)} \frac{L(s, f, \text{Sym}^2)}{L(1, f, \text{Sym}^2)} a_f(n) = P_n(s) + Q_n(s)$$

を与えた。ここで  $s$  は  $1 - k < \Re(s) < k - 1$  なる任意の複素数とする。また、  $P(s), Q(s)$  は有理型関数で、

$$P_n(s) = \frac{k-1}{2\pi} 2^{1-z} \pi^{\frac{3-z}{4}} \frac{\Gamma(k + \frac{z-1}{2})}{\Gamma(k) \Gamma(\frac{z+1}{4})} \zeta_{\mathbb{Q}}(-z) n^{\frac{k-1}{2} - \frac{z+1}{4}}.$$

$\zeta_{\mathbb{Q}}$  は完備 Riemann ゼータ関数。また  $\Delta = t^2 - 4m$  として、

$$Q_n(s) = \frac{k-1}{2\pi} (-1)^{k/2} 2^{\frac{z-3}{2} + k} \Gamma_{\mathbb{R}}\left(\frac{z+3}{2}\right) n^{k-1} \\ \times \sum_{t \in \mathbb{Z}} \{I_k(\Delta, t, \frac{z+1}{2}) + I_k(\Delta, -t, \frac{z+1}{2})\} L\left(\frac{z+1}{2}, \Delta\right)$$

とする。ここで

$$I_k(\Delta, s) = \frac{\Gamma(k-1/2) \sqrt{\pi}}{\Gamma(k)} \int_0^\infty \frac{y^{k+s-2}}{(y^2 + ity - \Delta/4)^{k-1/2}} dy$$

とした。  $\Delta$  は判別式 (4 で割った余りが 0, 1) なので  $\Delta = Df^2$  ( $D$  は基本判別式 or 1 で、  $f \in \mathbb{N}$ ) と一意的に表せるので、  $\Delta$  に付随する  $L$  関数  $L(s, \Delta)$  を

$$L(s, \Delta) = \begin{cases} L(s, \chi_D) \sum_{d|f} \mu(d) \chi_D(d) d^{-s} \sigma_{1-2s}(f/d) & (\Delta \neq 0) \\ \zeta_{\mathbb{Q}}(2s-1) & (\Delta = 0) \end{cases}$$

と定める。  $\Delta$  が平方数の時は  $D = 1$  とし、  $\chi_D$  は法 1 の自明な Dirichlet 指標とする。 Zagier の公式の Hilbert モジュラー形式版は水本 [2] や高瀬 [4] の結果が知られている。これらの結果を一般化することが今回の目的である。

さて、  $F$  を有限次総実代数体とする。  $F$  の整数環  $\mathfrak{o}_F$  のイデアル  $\mathfrak{a}$  を割る素点全体の集合を  $S(\mathfrak{a})$  とする。  $N(\mathfrak{a})$  は  $\mathfrak{a}$  の絶対ノルムとする。  $F$  の有限素点  $v$  に対して完備化の剰余体の濃度を  $q_v$  とする。

1: 日大理工・教員・数学

モジュラー形式に対応するものとして、 $GL_2(\mathbb{A}_F)$  の既約カスピダル保型表現  $\pi$  で中心指標が自明、重さが  $k = (k_v)_{v|\infty} \in 2\mathbb{Z}_{\geq 2}^{[F:\mathbb{Q}]}$ 、コンダクター  $f_\pi$  が  $\mathfrak{n}$  を割り切るもの全体を  $\Pi_{\text{cusp}}(k, \mathfrak{n})$  とする。  $\mathfrak{n}$  は以下  $\mathfrak{o}_F$  の非ゼロな square-free イデアルとする。

**定義 2**  $F$  の有限素点からなる有限集合  $S$  で  $S(\mathfrak{n})$  とは disjoint なものを固定する。  $\alpha = \otimes_{v \in S} \alpha_v$  は複素多様体  $\prod_{v \in S} \mathbb{C}/4\pi i(\log q_v)^{-1}\mathbb{Z}$  上の正則関数で、各  $\alpha_v$  は偶関数とする。この時、 $z \in \mathbb{C}$  に対して、

$$I_{\text{cusp}}(z) = (-1)^{\#S} \frac{D_F^{z-1/2}}{2} C(k, \mathfrak{n}) N(\mathfrak{n})^{(z-1)/2} \times \sum_{\pi \in \Pi_{\text{cusp}}(k, \mathfrak{n})} W_{\mathfrak{n}}^{(z)}(\pi) \frac{L(\frac{z+1}{2}, \pi, \text{Sym}^2)}{L(1, \pi, \text{Sym}^2)} \alpha(\nu_S(\pi))$$

と定める。ここで、 $D_F$  を  $F$  の判別式の絶対値とし、

$$C(k, \mathfrak{n}) = D_F^{-1} \left\{ \prod_{v \in \Sigma_\infty} \frac{4\pi}{k_v - 1} \right\} \left\{ \prod_{v \in S(\mathfrak{n})} (1 + q_v)^{-1} \right\}$$

とおいた。  $W_{\mathfrak{n}}^{(z)}(\pi)$  は  $\{q_v^{z/2} + q_v^{-z/2}\}_{v \in S}$  に関する明示的な多項式である (詳細は略)。

**定理 3** ([3])  $z \in \mathbb{C}$  が  $|\Re(z)| < \min_{v \in \Sigma_\infty} k_v - 3$  の時、

$$I_{\text{cusp}}(z) = J_{\text{id}}(z) + J_{\text{unip}}(z) + J_{\text{hyp}}(z) + J_{\text{ell}}(z)$$

が成立する。  $J_{\text{id}}(z)$ ,  $J_{\text{unip}}(z)$ ,  $J_{\text{hyp}}(z)$ ,  $J_{\text{ell}}(z)$  はそれぞれ、  $J_{\text{id}}(z) = 0$ ,  $J_{\text{unip}}(z) = D_F^{z/4} \{G(z) + G(-z)\}$ , 但し

$$G(z) = D_F^{-\frac{z+2}{4}} \zeta_F(-z) \prod_{v \in S(\mathfrak{n})} \frac{1 + q_v^{\frac{z+1}{2}}}{1 + q_v} \prod_{v|\infty} \{2^{1-z} \pi^{\frac{3-z}{4}} \times \frac{\Gamma(k_v + \frac{z-1}{2})}{\Gamma(\frac{z+1}{4}) \Gamma(k_v)}\} \prod_{v \in S} \left\{ \frac{1}{2\pi i} \int_{c-i\frac{2\pi}{\log q_v}}^{c+i\frac{2\pi}{\log q_v}} \frac{-q_v^{-(s_v+1)/2}}{1 - q_v^{-s_v-(z+1)/2}} \times \alpha_v(s_v) \frac{\log q_v}{2} (q_v^{(1+s_v)/2} - q_v^{(1-s_v)/2}) ds_v \right\}$$

であり、 $\zeta_F(s)$  は完備 Dedekind ゼータ関数である。また、

$$J_{\text{hyp}}(z) = \frac{D_F^{-1/2}}{2} \zeta_F\left(\frac{1-z}{2}\right) \times \sum_{\alpha \in \mathfrak{o}_F(S)_+^\times - \{1\}} \mathbf{B}_{\mathfrak{n}}^{(z)}(\alpha|1; \frac{\alpha}{(\alpha-1)^2} \mathfrak{o}_F) \prod_{v|\infty} \mathcal{O}_v^{+, (z)}\left(\frac{\alpha+1}{\alpha-1}\right).$$

但し  $\mathfrak{o}_F(S)_+^\times$  は  $S$  整数環の総正単数全体の集合。  $\mathbf{B}$  と  $\mathcal{O}$  は明示的に書ける (詳細は略)。そして、

$$J_{\text{ell}}(z) = \frac{1}{2} D_F^{-1} \sum_{(t:\mathfrak{n})_F} N(\mathfrak{d}_\Delta)^{\frac{z+1}{4}} L\left(\frac{z+1}{2}, \chi_\Delta\right) \times \mathbf{B}_{\mathfrak{n}}^{(z)}(\alpha|\Delta; n f_\Delta^{-2}) \prod_{v|\infty} \mathcal{O}_v^{\text{sgn}_v(\Delta), (z)}(t|\Delta|_v^{-1/2}).$$

ここで、 $\Delta = t^2 - 4n$  で、 $\mathfrak{d}_\Delta$  は  $F(\sqrt{\Delta})/F$  の相対判別イデアルである。同値類  $(t : \mathfrak{n})_F = \{(ct, c^2n) \in F^2 | c \in F^\times\}$  は様々な明示的条件を満たすように走る。  $\mathbf{B}$  と  $\mathcal{O}$  も明示的に書ける (詳細は略)。

アデリックな手法の先行研究として  $GL_2(\mathbb{A}_K)$  ( $K$  は大域体) の観点で Jacquet, Zagier [1] の公式があるが、彼らは抽象的な展開しか与えておらず、Zagier の公式が復元できるかどうか未解決である。

対称 2 次  $L$  関数の特殊値  $L(s, \pi, \text{Sym}^2)$  ( $1/2 \leq s < 1$ ) の非ゼロ性への応用を述べる。  $k = (k_v)_{v|\infty}$  を  $\min_{v|\infty} k_v \geq 6$  となるものとして固定する。次の仮定を用意する。

$$\mathbf{(P)}: L\left(\frac{z+1}{2}, \pi, \text{Sym}^2\right) \geq 0 \text{ が } \forall z \in [0, 1], \forall \mathfrak{n} \in \Pi_{\text{cusp}}(k, \mathfrak{n}) \text{ で成立する.}$$

この仮定  $\mathbf{(P)}$  は、 $L(s, \pi, \text{Sym}^2)$  たちの一般 Riemann 予想を仮定すると中間値の定理から直ちに従う。

$F$  のイデアル類群の完全代表系  $\mathfrak{a}_1, \dots, \mathfrak{a}_h$  を、 $\mathfrak{o}_F$  の素イデアルになるようにとる。  $S$  は  $F$  の有限素点からなる有限集合で  $S(2 \prod_{j=1}^h \mathfrak{a}_j)$  と disjoint とする。

**系 4** ([3])  $\mathbf{(P)}$  を仮定する。各  $v \in S$  に対して  $[-2, 2]$  の任意の部分区間  $J_v = [t_v, t'_v]$  (但し  $t_v < t'_v$ ) を取る。この時、ある  $M > 0$  が存在して、 $S \cup S(2 \prod_{j=1}^h \mathfrak{a}_j)$  と互いに素な任意の素イデアル  $\mathfrak{n}$  (但し  $N(\mathfrak{n}) > M$ ) と任意の  $z \in [0, 1]$  に対して、以下の 3 条件を満たすカスピダル保型表現  $\pi \in \Pi_{\text{cusp}}(k, \mathfrak{n})$  が存在する: (1)  $f_\pi = \mathfrak{n}$ , (2)  $L(\frac{z+1}{2}, \pi, \text{Sym}^2) \neq 0$ , (3)  $(q_v^{\nu_v(\pi)/2} + q_v^{-\nu_v(\pi)/2})_{v \in S} \in \prod_{v \in S} J_v$ .

ここで  $\text{diag}(q_v^{\nu_v(\pi)/2}, q_v^{-\nu_v(\pi)/2})$  は  $\pi$  の  $v$  成分の佐武パラメーター。上の結果は  $\prod_{v \in S} J_v = [-2, 2]^S$  の時は、 $\mathbf{(P)}$  は必要はない。

特に  $L(\frac{z+1}{2}, \pi, \text{Sym}^2) \neq 0$  なる保型表現  $\pi$  が無限個存在する。従来の証明法は関数論 (大域的手法) に依るが、本研究では表現論 (局所的手法) なる新たな手法を用いた。

### 3. 参考文献

- [1] Jacquet, H., Zagier, D., *Eisenstein series and the Selberg trace formula II*, Trans. Amer. Math. Soc. **300** No.1, 1–48, 1987.
- [2] Mizumoto, S., *On the second L-functions attached to Hilbert modular forms*, Math. Ann. **269**, 191–216, 1984.
- [3] Sugiyama, S., Tsuzuki, M., *An explicit trace formula of Jacquet-Zagier type for Hilbert modular forms*, J. Func. Anal. Vol. **275**, Issue 11, 2978–3064, 2018.
- [4] Takase, K., *On the trace formula of the Hecke operators and the special values of the second L-functions attached to the Hilbert modular forms*, manuscripta math. **55**, 137–170, 1986.
- [5] Zagier, D., *Modular forms whose Fourier coefficients involve zeta-functions of quadratic fields*, Lecture Notes in Math., **627**, 105–169, Springer, 1977.